

神領小学校  
「学力実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- 聞く・読む・話す・書く力を身に付ける授業づくり

学力向上検討委員会構成

- |         |    |              |                    |
|---------|----|--------------|--------------------|
| 学力向上推進員 | 委員 | 校長 楠 達也      | 教頭 中岡 奈々           |
| 指導教諭    |    | 教務主任 武市 由美   | 人権教育主事 前川 直哉       |
| 堀井 晴美   |    | 生徒指導主任 宮本 陽平 | 特別支援コーディネーター 安西 莉子 |

校長

楠 達也



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算などの基礎的な力が定着してきている。課題に対して真面目に取り組む児童が多い。 ●どの学年も身に付けた知識・技能を活用して問題を解決することに課題がある。個々の学力差が顕著である。	・基礎・基本の力を確実に身に付け、様々な学習や生活の場面で、習得した知識・技能を活用することができる。	・朝の学習の時間等を活用し、基礎的・基本的な力の定着を図る。 ・TT指導や習熟度別学習をより効果的に行い、個に応じた指導を継続する。 ・身に付けた知識・技能を活用する場面を意図的に取り入れた授業を展開する。	取組の継続	・TT指導を行うことで、基礎・基本の力を身に付けることができた。しかし、計算力に課題があるため、問題を解く過程で行き詰まる児童がいる。 ・習得した知識・技能を授業内で活用する場面を設定する授業展開を工夫した。	・朝の学習等を活用し、課題となっている計算力をはじめ、基礎・基本の定着をさらに進める。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えをまとめ、発表することができる児童が増えてきた。 ●他者の考えと比べながら聞き、自分の考えを再構築したり、より伝わるように表現を工夫したりする力に課題がある。	・友達の発表を自分の考えと比べながら聞き、それに対する感想や意見を、根拠や理由を明らかにしながら表現したり、自分の考えを再構築したりすることができる。	・「聞き方・話し方ナビ」やホワイトボード、ICTを活用するなどし、自分の考えを表現できるようにする。 ・ペアやグループ活動を取り入れる等、考えを深め合い学び合う授業づくりをする。	取組の継続	・ホワイトボードの活用等の工夫をすることで、自分の考えを伝えたり、友達の考えと比べながら聞いたりすることができたが、自分の考えを再構築するまでには至っていない児童がいる。	・自分の考えをもったり、考えを交流したりする時間を十分確保するように、今後も努める。 ・ICTを活用して効果的に発表する仕方の研究を深める。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の学習や家庭学習に、意欲的に取り組むことができる。 ●苦手を克服しようと学習計画を立てて取り組んだり、粘り強く続けたりすることに課題がある。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさを感じ、自分をより高めたいという意欲をもつ。 ・自分の学びを振り返り、自らの課題を解決するための計画を立て、実践することができる。	・主体的な学びとなるよう、課題の提示の仕方を工夫する。また、振り返りの視点を示し、児童が自らの学びについて振り返ることができるようにする。 ・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と連携しながら家庭学習の内容を充実させる。	取組の継続	・授業や生活の中で疑問に思ったことを発表しやすい学級作りが進み、児童が意欲をもち、学びを深めていくことができた。 ・学習した内容を自ら広げて、自主学習をしていく児童が増えてきた。	・子どもの実態を把握しながら、個に応じた指導・支援や課題提示を行うとともに、協働的な学びを意識した授業づくりに努める。

令和4年度 学力向上ロードマップ

